

運動会で目指すことは？

船引小学校長 安生昌弘

運動会が1か月後に近づいてきました。楽しみだなと思う人や運動が苦手な人などは、ちょっといやだなと思うかも知れませんね。でも、どうして学校では運動会をするのでしょうか。もう勘のいい人は気づいていますね。そうです、私たち船引小学校の目標「やさしく、かしこく、たくましく」の「たくましく」に関係ありそうですね。でも「やさしく」にも関係しているのかも知れませんよ。

3年前に私の従兄の息子さんS君が結婚式を挙げました。互いに惹かれ合ってお嫁さんと一緒に生きていくことにしたのです。とても心温まる結婚披露宴(お祝いのパーティー)が行われ、私もお呼ばれして参加していました。その披露宴の最後にお婿さんS君のお父さんである、私の従兄がお礼の言葉を話し始めました。その中に、こんな話がありました。

息子のSは小学校の時から、ずっと大きくなるまで賞状をもらうような「賞」という物を何ももらったことがない子どもでした。小学校の運動会でもそうで、足が遅くて3等賞までに一度も入ったことがありませんでした。でも一度だけ大チャンスがあったんです。小学校最後の6年生の運動会のことでした。その時は個人競走が障害物競走で、跳び箱を越えたり、大きなネットをくぐったり、平均台(一本橋)を渡ったりする種目でした。息子のSの順番がやってきました。スタートすると、やっぱり一番最後を走って行きます。ところが、前を走っていた多くの子どもがネットをくぐる時に引っかかってしまい、引っかかった子によって出来たネットの隙間をSがスッと抜けて、あっという間に2位になりました。後は前に行く1位の子だけです。生まれて初めての賞かも知れない。私たち家族は大声で応援しました。1位の子が最後の平均台(一本橋)を渡り始めました。ところが渡り終わるところで何と転んでしまったのです。すぐには起きられないようでした。もう一本の平均台を渡り終えたSが1位になりました。もうあと少し走ればゴールです。家族が『やったぞ。生まれて初めての1等賞だ』と思った瞬間、Sは何を思ったか、くると後ろを向くと転んだ子の所へ戻り、起こしてあげているではありませんか。その間にみんなゴールしたので、結局転んだ子と二人で一番最後に仲良くゴールしました。息子のSは賞を獲れませんでした。私たち家族は1等賞目前で友達の所へ戻った息子から1等賞をもらったような気持ちになりました。優しい息子を誇りに思えたからです。今日の素敵なお嫁さんとの結婚式は、それ以来2回目の1等賞をもらったような気持ちです。



この話を隣に立ったウェディングドレス姿のお嫁さんも涙を流しながら聞いていました。優しい人は優しい人と惹かれ合うんだなあと思いました。

運動会は、その練習の中や当日の運動会で、体を鍛えて「たくましく」なるばかりでなく、友達と協力しながら、いろいろやり遂げていく途中で「やさしく」なれることに、ぴったりの行事です。6年生は最後の、1年生は初めての運動会で「たくましく」そして「やさしく」なることを目指して頑張りましょう。